

[概要]

本稿では三重県伊賀市の組紐業の産地維持要因を明らかにすることを目的に、産業論的アプローチにより、近年における生産流通構造の変化を捉え分析した。三重県組紐協同組合と組合に所属する3件の組紐店に聞き取り調査を行い、近年の生産流通面での変化、後継者への技術継承について調査した。本稿では以下のことが明らかになった。①近年、組紐産地の分業制を支えていた染色業者、糸繰り業者の数が減少したために、自ら染色を始めた組紐店、また今まで組合以外の業者に任せていた糸繰りをほとんど専門的に行い始める組紐店が現れるなど伊賀市の組紐産地における分業制は変革期を迎えていること。②中国製組紐の国内参入により国内の組紐業の工賃が低くなったことで、内職者、従業員数の減少、高齢化が進み手組みによる組紐の生産効率が悪くなっていること。③手組みによる組紐の生産効率が悪くなったことで機械組みによる組紐の生産量が多くなる組紐店がいる中で、手組みの組紐の高付加価値化に成功し、新たな需要を開拓した事業者が存在すること。この結果から、機械組みによる組紐生産が導入された後も、伝統的な製法が産地内で重要性を失わずに存続し続けていたことにより、伝統的な製法によって生産されている組紐の高付加価値化に成功したことが伊賀組紐の産地維持要因として挙げられる。また海外製組紐の国内参入、和装需要の低下により産地内の組紐業の工賃が低くなったことで、手組みによる組紐生産の衰退が見られることから、手組みによるものと合わせて機械組みによる組紐生産が維持されることが産地の維持には重要であると考えられる。また組紐産地を維持するためには後継者や新規の内職、従業員を獲得する必要があるが、そのためには手組みによる組紐の高付加価値化に成功したことによって得られた新規の需要をさらに開拓し、地域の産業として組紐業を発展させる必要があると考えられる。